HM000061-E

トレンドロガー

取扱説明書

株式会社 AAJ

改定履歴

改定日付	改定内容	副番
2026 年　　8 月　　1 日	初版	ー
		A
		B
		C
		D
		E

目次

第 1 章　はじめに 4

1.1　概要 5
1.2　特徴 5
1.3　構成 5
1.3.1　内部ログバッファのみ 5
1.3.2　データベース対応（将来機能追加版） 6
本データロガーがデータベースをサポートしていて内部のデータベースを使って動作させた時のイメージ図です。 6
1.4　動作環境 7
1.5　仕様 8
1.5.1　BACnet 規格 8
1.5.2　サポート BIBB 8
1.5.3　オブジェクト 9
1.5.4　プロパティ 9

第 2 章　インストール 10

2.1　インストールの流れ 11
2.2　インストール 13
2.3　プロダクトキー設定 15
2.4　IP アドレス 15
2.4.1　IP アドレスの登録情報 15
2.4.2　追加方法 15

第 3 章　初期設定 16

3.1　初期設定方法 17
3.2　TrendLog オブジェクトの作成 19

第 4 章　その他 24

4.1　アンインストール 24
4.2　プログラムと機能を表示 24
4.3　オブジェクトの追加 26
4.4　動作開始と停止 26

第 5 章　バックアップとリストア 27

5.1　保存 27

5.2　リストア 27

第1章 はじめに

1.1 概要

本製品（トレンドロガー）は、本製品内に定義されたトレンドログオブジェクトにより B-BC のデータを定期的に読み込み本製品内に格納し、それを中央監視装置からの ReadRange コマンドにより読み込ませることを可能にします。
本マニュアルは、トレンドロガーの仕様、取扱方法などについて説明したものです。

1.2 特徴

本製品（トレンドロガー）の主な特徴は、下記の通りです。
本トレンドロガーにはトレンドログオブジェクトを複数定義することができる。
トレンドロガーはそのトレンドログオブジェクトのプロパティに従ってデータを収集しログバッファに格納する。ログバッファは装置のメモリ内にトレンドログオブジェクトのバッファサイズプロパティにより起動時に確保される。

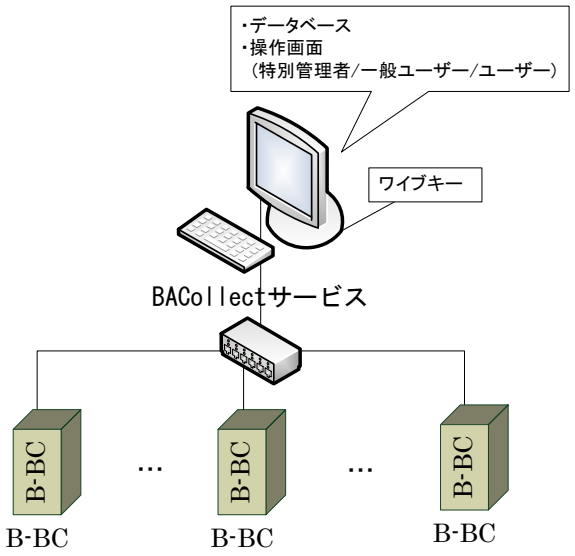
ログバッファの内容は画面に表示して確認できる。表示しているデータを CSV ファイルで保存することができます。

また中央監視装置からの ReadRange コマンドによりログバッファの内容を読み込ませることができます。

1.3 構成

システムの構成例は、下記の通りです。

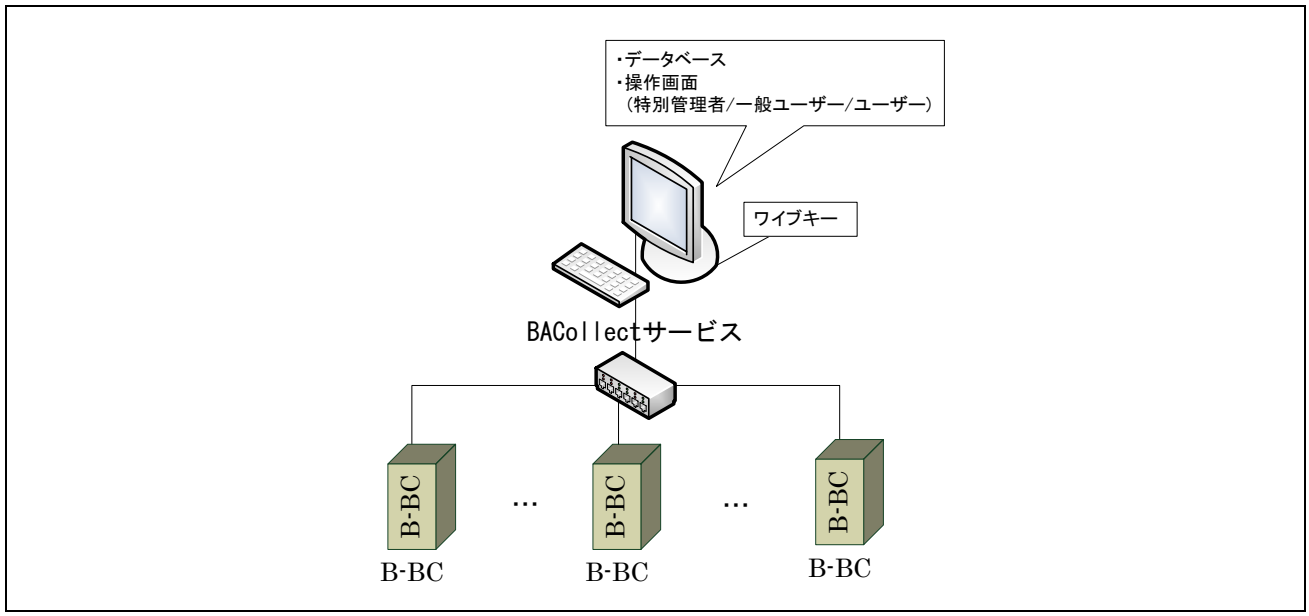
1.3.1 内部ログバッファのみ



1.3.2 データベース対応（将来機能追加版）

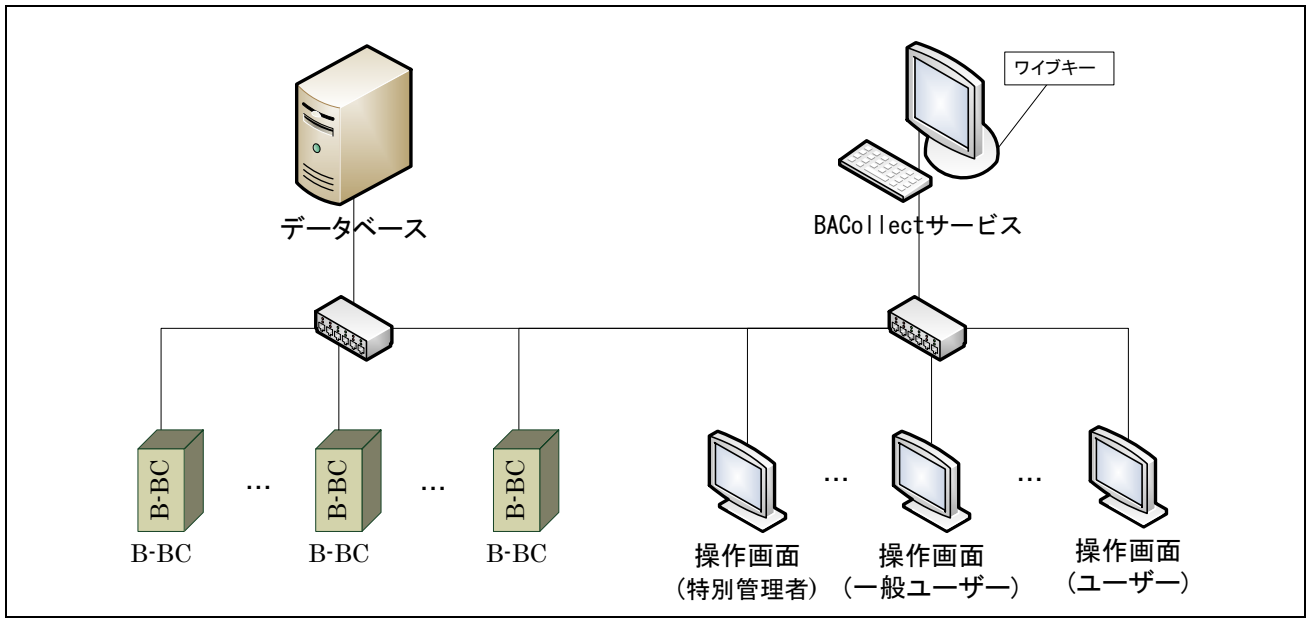
1.3.2.1 システム構成例 1

本データロガーがデータベースをサポートしていて内部のデータベースを使って動作させた時のイメージ図です。



1.3.2.2 システム構成例 2

本データロガーがデータベースをサポートしていて外部のデータベースを使って動作させた時のイメージ図です。



1.4 動作環境

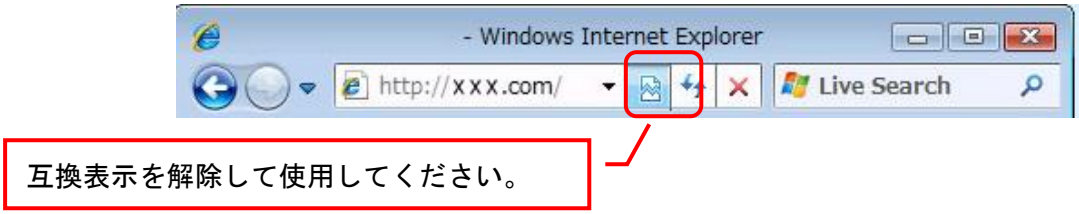
ソフトウェアの動作環境は、下記の通りです。

項目	仕様
OS	Windows 8 / 8.1 / 10 Windows Server 2012、2016、2019
システム種類	32 ビット / 64 ビット
CPU	オペレーティング システムの推奨による
メモリ	1GB 以上
ハードディスク	35MB 以上 ※「Microsoft SQL Server」をインストールする場合、 1GB 以上の空き容量が必要です。
ディスプレイ解像度	800×600 以上
表示色	256 色 以上
ブラウザ	Internet Explorer 8 / 9 / 10 / 11
データベース	Microsoft SQL Server 2012 ※1
	Microsoft SQL Server 2014
	Microsoft SQL Server 2016
	Microsoft SQL Server 2017
	Microsoft SQL Server 2019

※1：Windows 認証でアクセスする場合は、「**エラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。**」を必ず行ってください。

Internet Explorer 9 を使用した時の注意点

互換表示は、必ず解除して使用してください。解除していないと画面が表示されません。



1.5 仕様

1.5.1 BACnet 規格

本製品が準処する BACnet 規格は、下記の通りです。

電気設備学会
・ANSI/ASHRAE135-2004 ・IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a

1.5.2 サポート BIBB

本製品が実装する BIBB は、下記の通りです。

BIBB 区分	BIBB	サポートサービス
Data Sharing	DS-RP-A	・ReadProperty
	DS-RP-B	
	DS-RPM-A	・ReadPropertyMultiple
	DS-RPM-B	
	DS-WP-B	・WriteProperty
	DS-WPM-B	・WritePropertyMultiple
	DS-COV-A	・SubscribeCOV ・ConfirmedCOVNotification ・UnConfirmedCOVNotification
Alarm and Event	AE-N-A	・ConfirmedEventNotification ・UnConfirmedEventNotification
	AE-ASUM-B	・GetAlarmSummary
	AE-ESUM-B	・GetEnrollmentSummary
	AE-INFO-B	・GetAlarnInformation
Device Management	DM-DDB-A	・I-Am
	DM-DDB-B	・Who-Is
	DS-TS-B	・TimeSynchronization
	DS-UTC-B	・UTCTimeSynchronization

1.5.3 オブジェクト

対応しているオブジェクトタイプは、下記の通りです。

タイプ番号	名称	略号
0	Analog Input Object	AI
1	Analog Output Object	AO
2	Analog Value Object	AV
3	Binary Input Object	BI
4	Binary Output Object	BO
5	Binary Value Object	BV
8	Device Object	DV
13	Multi-state Input Object	MI
14	Multi-state Output Object	MO
19	Multi-state Value Object	MV
23	Accumulator Object	AC
20	TrendLog Object	TL
128	計量オブジェクト	ZK
130	電力デマンド監視オブジェクト	ZD
131	電力デマンド制御オブジェクト	ZC
132	発電機負荷制御オブジェクト	ZL

1.5.4 プロパティ

対応しているプロパティは、下記の通りです。

ID	名称	Analog Input	Analog Output	Analog Value	Binary Input	Binary Output	Binary Value	Multi State Input	Multi State Output	Multi State Value	Trend Log	Accumulator	計量	電力デマンド監視	電力デマンド制御	発電機負荷制御
15	ChangeOfStateCount	×	×	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
33	ElapsedActiveTime	×	×	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
36	EventState	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
40	FeedbackValue	×	×	×	×	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×
81	OutOfService	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●
85	PresentValue	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●
103	Reliability	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●
111	StatusFlags ※1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●
131	LogBuffer	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×
186	PulseRate	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×

（●…対応している、×…対応していない）

※1　PresentValue と同時に設定されます。

第2章 インストール

2.1　インストールの流れ

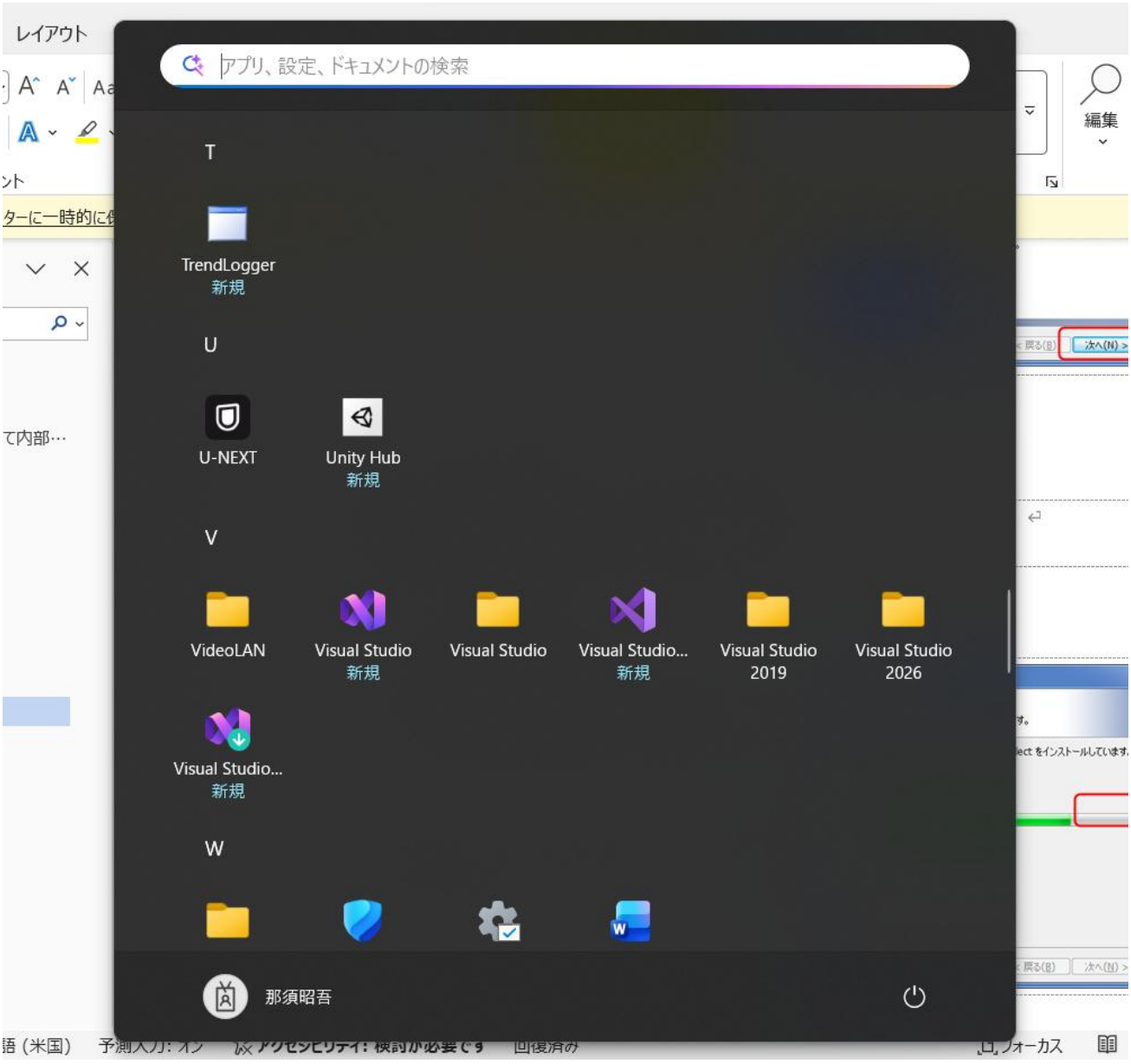
インストールの流れは、下記の通りです。

1.	”Setup.exe”をインストールする ≪2.2 インストール≫

▼

2.	プロダクトキー設定 ≪2.2 インストール≫

▼



3.	初期設定

▼

4.	トレンドログ設定 ≪

▼

5.	利用開始

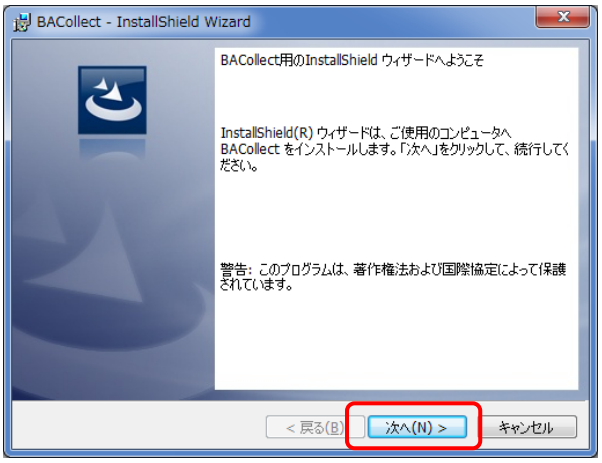
2.2 インストール

下記の手順に従って TrendLogger をインストールしてください。

1. ウィザード画面を立ち上げる

CD を挿入して右の画面を表示させます。
自動的に立ち上がらない場合は、ファイルエクスプローラから”Setup.exe”をクリックしてください。

[次へ(N)] ボタンをクリックします。



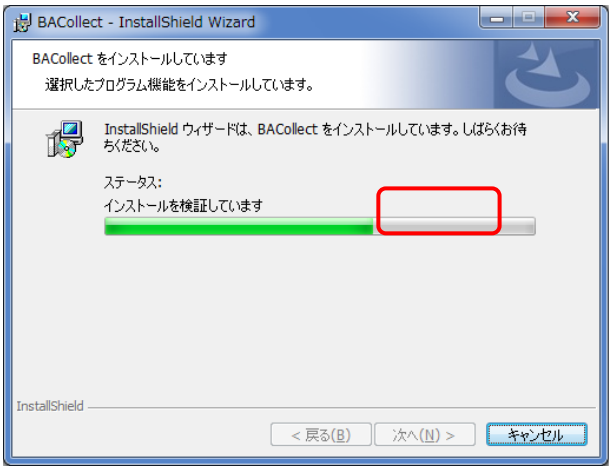
2. インストールの確認

Windows の Windows キーを押し TrendLogger が設定されていることを確認する

3. インストール作業

インストール作業が開始されます。
インストール作業が開始されるまで、数秒待たされることがありますが、そのままお待ちください。

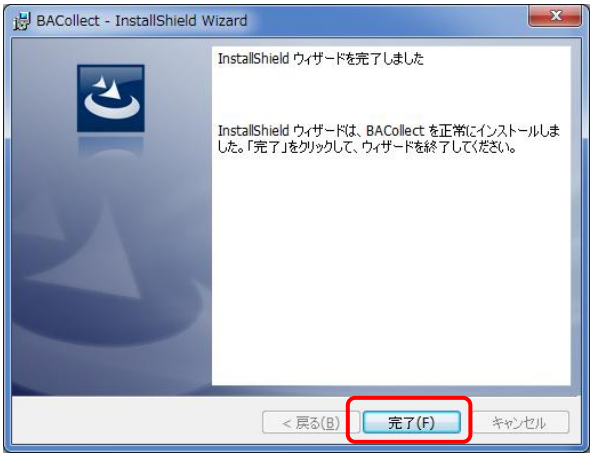
※ユーザーアカウント制御のダイアログが表示された時は[OK]ボタンをクリックしてください。



4. インストール完了

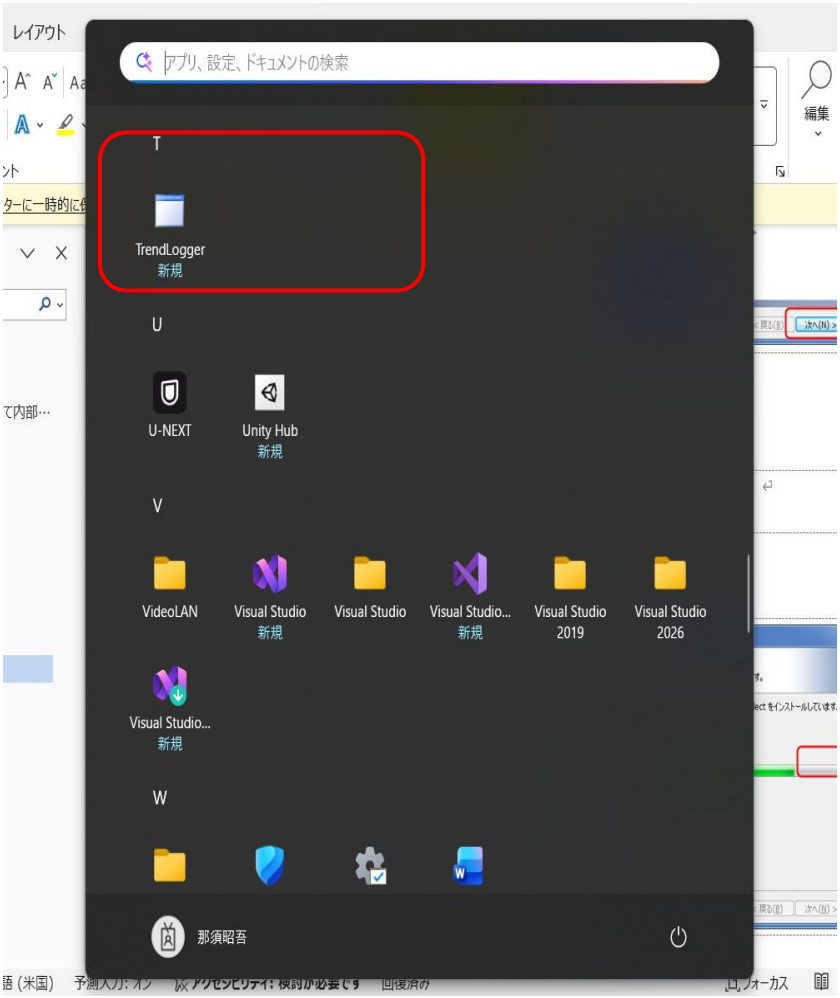
インストールが完了すると、右の画面が表示されます。

[完了(F)] ボタンをクリックします。



5. プログラムの確認

・ Windows を押し「すべて表示」を選択し T に移動すると右のように TrendLogger が表示されるのを確認する。



2.3 プロダクトキー設定

下記の手順に従って、プロダクトキーを設定してください。

1. TrendLogger を起動する

2. メニューからプロダクトキー用データ作成を指定し作成されたプロダクトキー用データをユニテックに送付する。ユニテックから返送されたプロダクトキーを入力する。

2.4 IP アドレス

2.4.1 IP アドレスの登録情報

IP アドレスの登録情報の調べ方は、下記の通りです。

1. コマンドプロンプト画面を表示し IP アドレスを確認

コマンドプロンプトで ipconfig と入力し表示されたデータを確認すればユーザのパソコンに設定されているイーサネットアダプタの IP アドレスを確認することができる。

2.4.2 追加方法

必要なＩＰアドレスが登録されてない場合は Windows の操作で IP アドレスを登録します。

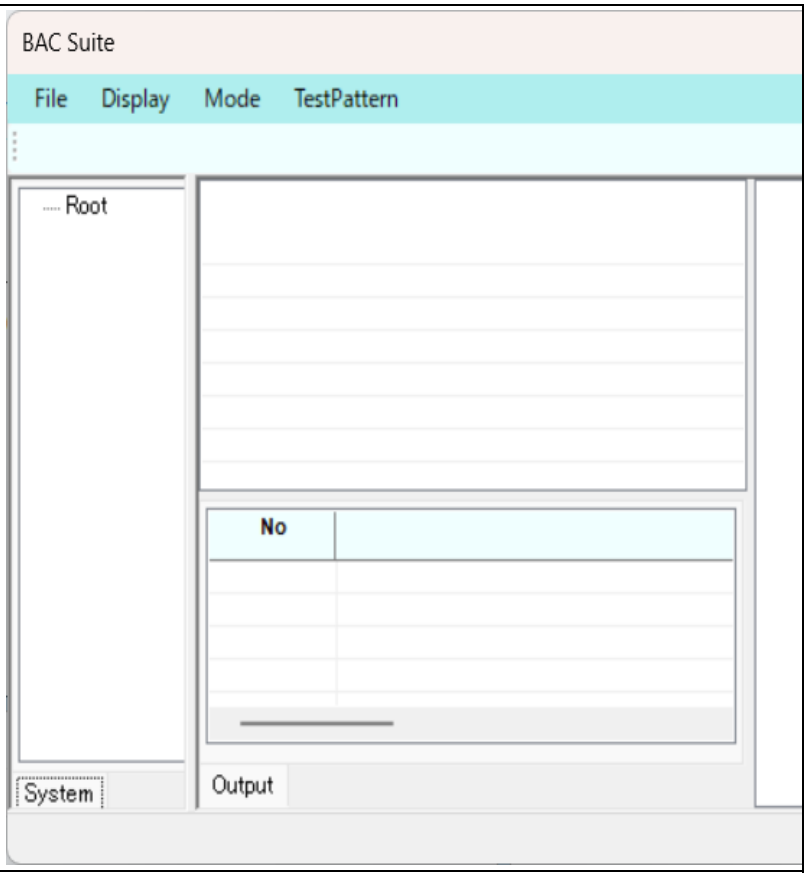
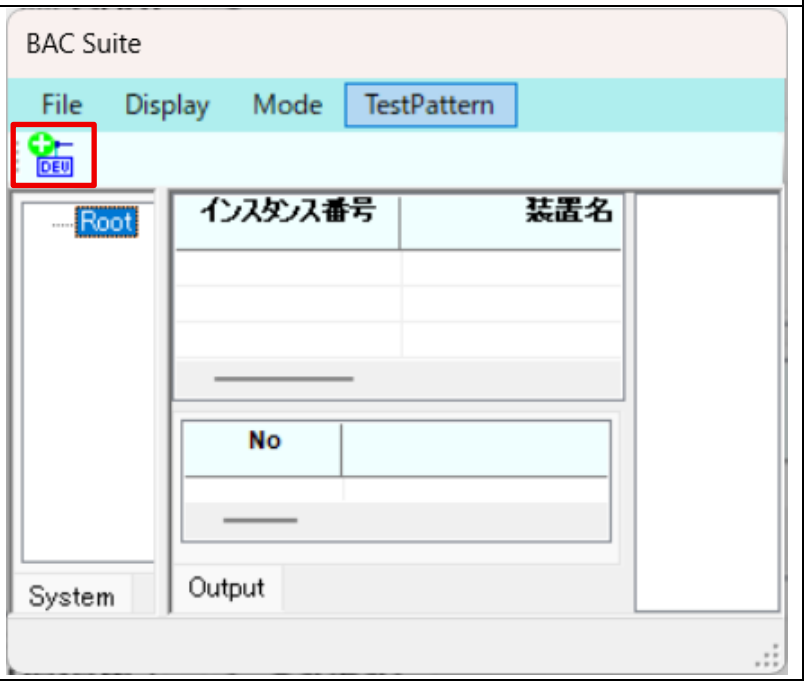
BACollect

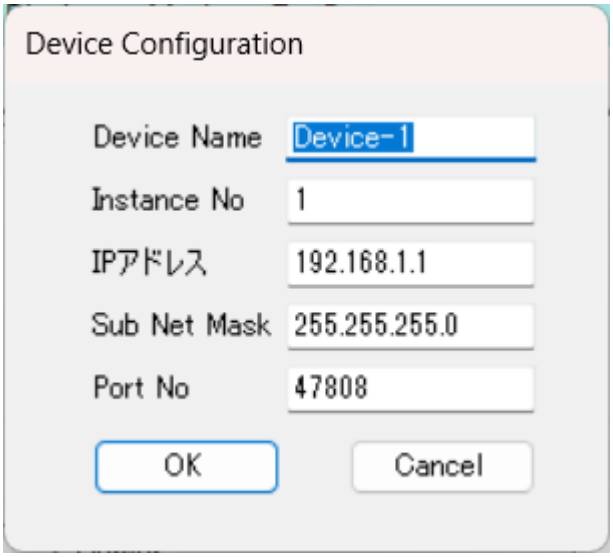
3

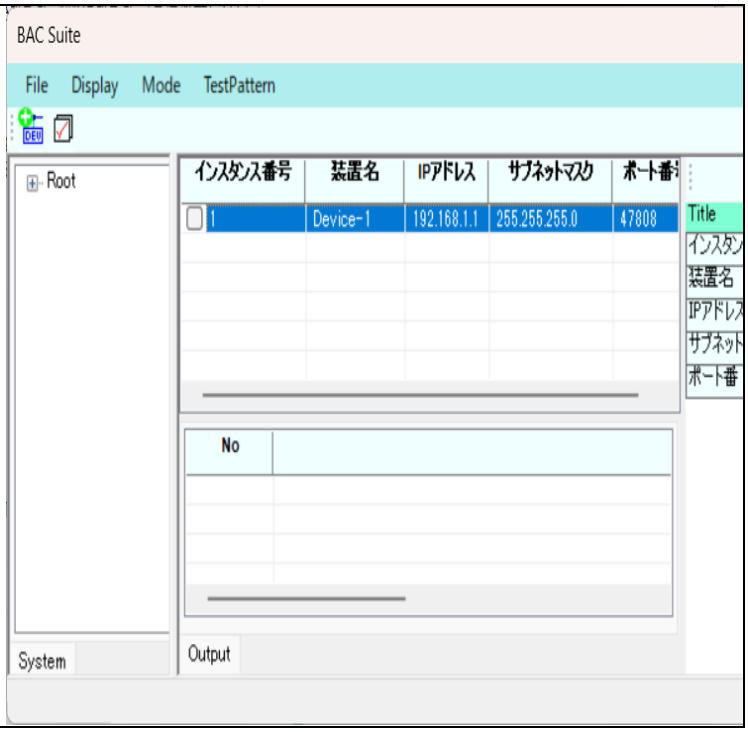
第3章 初期設定

3.1 初期設定方法

TrendLogger インストール後はまず TrendLogger が BACnet システムに接続するためには BACnet の DeviceObject を設定することから始めます。

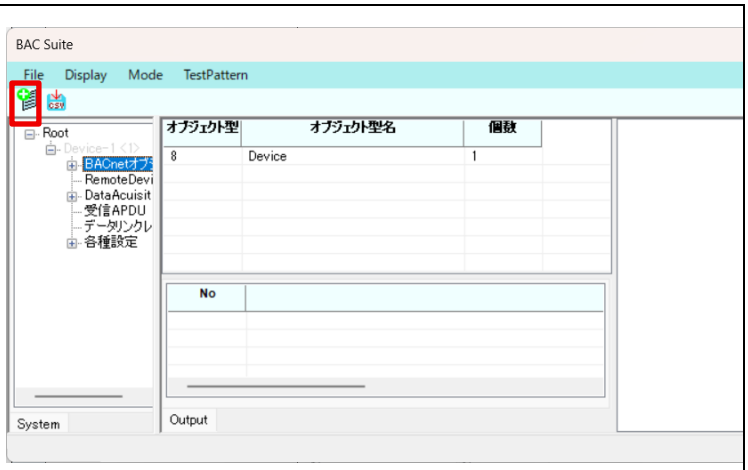
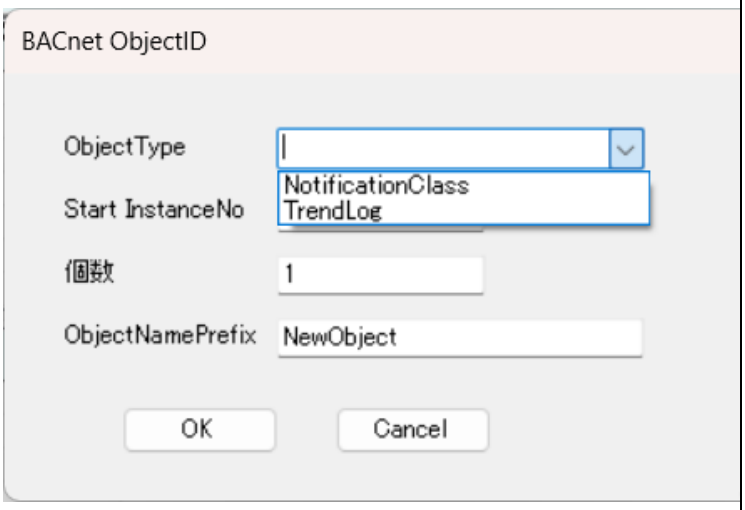
1.	TrendoLogger を起動する	
2.	Root を押すと現れるツールバーで右の赤枠で示されるボタンを押すとデバイス設定画面が表示される「	

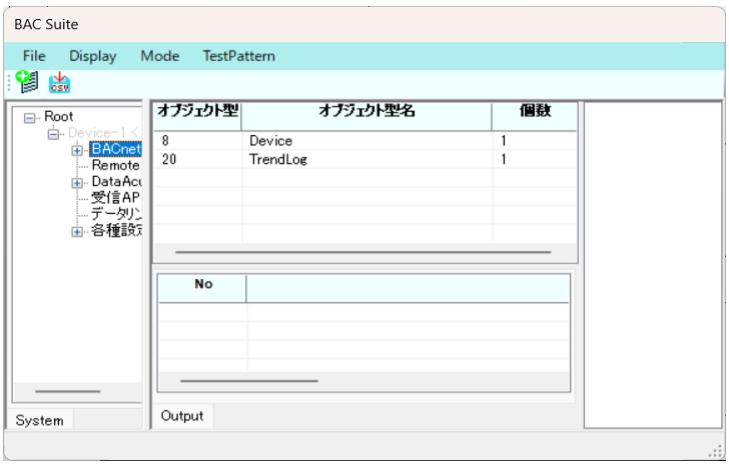
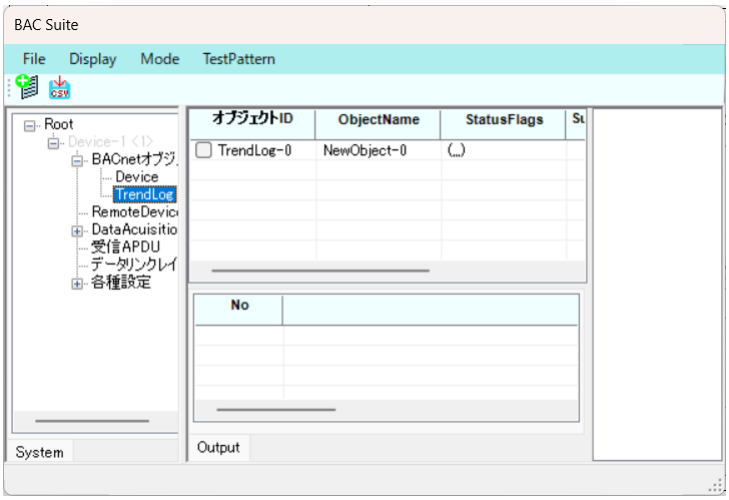
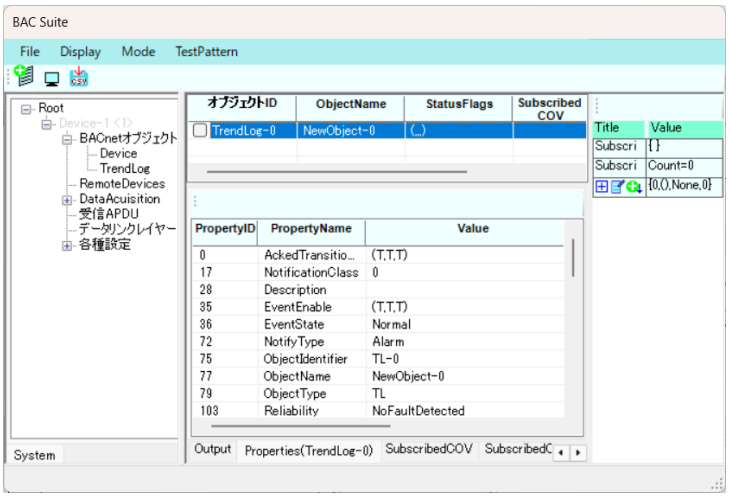
3.	テキストボックスの中をすべて埋めてから ok ボタンを押す。	

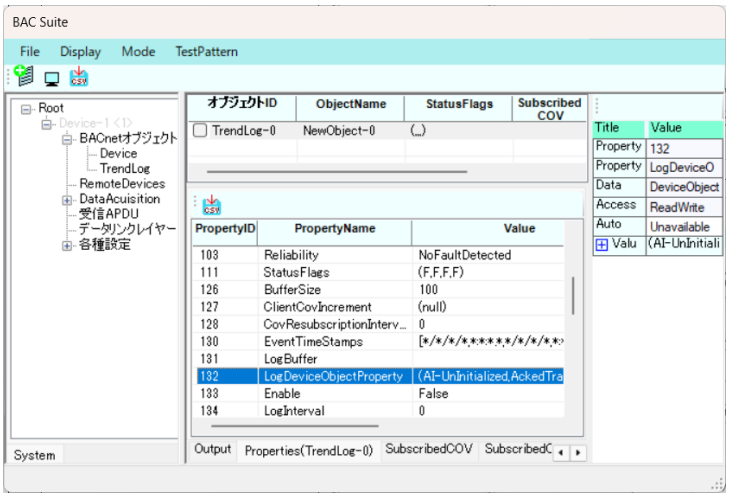
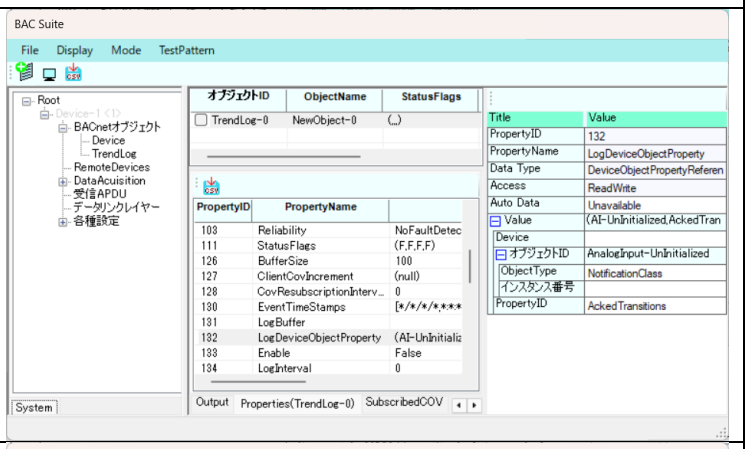
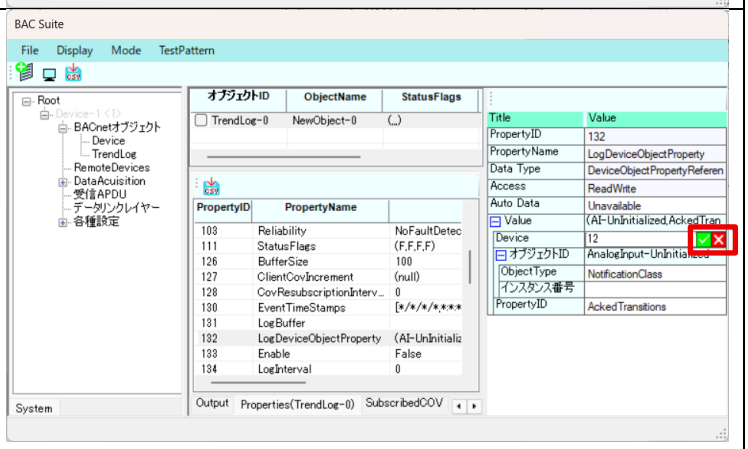
4.	上記で各項目入力後ＯＫを押すとＩＰアドレスとポート番号がただしければ右のような画面が表示される。インスタンス番号、ＩＰアドレス、サブネットマスク、ポート番号が正しく表示されることを確認する。	

この後トレンドログオブジェクトや Notification オブジェクト（これは必須ではない）を登録する

3.2 TrendLog オブジェクトの作成

(1)	上記で OK 入力後吊ツリービューを右図のように BACnet オブジェクトまで展開し表示される（赤枠で示される）BACnet オブジェクト追加ボタンを押すと BACnet オブジェクト追加画面が表示される。	
(2)	右の BACnet オブジェクト追加画面で ObjectType に TrendLog を指定し StartInstanceNo に作成すべき TrendLogObject の先頭インスタンス番号を入力し作成する個数を入力すると TrendLog オブジェクトが作成される。作成された TrendLog オブジェクトのオブジェクト名は ObjectNamePrefix で始まりそのあとに連番の番号が付加されたものになる。	

1	TrendLog オブジェクトが正しく作成されると右のように TrendLog オブジェクトの個数が更新される。	
2	ツリービューで BACnet オブジェクトの下の TrendLog をクリックすると追加された TrendLog オブジェクトの一覧が右のように表示される。	
3	真ん中の上段エリアにて確認したいオブジェクトの行をクリックすると下段にそのオブジェクトのプロパティ一覧が表示される。	

4	プロパティ一覧あてい画面で編集したいプロパティをクリックすると右側のプロパティ編集画面が表示される。そこでプロパティの詳細内容を修正できる。プロパティの詳細内容が階層構造を持つ場合項目名の右に評されるプラスボタンを押すことで展開して編集できる	
5.	右図は階層をすべて展開した場合である。	
6.	編集したい項目の右に表示されるデータをくりっくするとその項目によりテキストボックスやコンボｂノックスなどが表示されるので新しい値を入力後緑色のチェックマークをクリックすれば更新される、」色の X マークはキャンセルとなる。	

▼

修正すべきプロパティをすべて修正する

第4章 その他

4.1 アンインストール

下記の手順に従って、BACollect をアンインストールしてください。

4.2 プログラムと機能を表示

スタートボタンを右クリックして「インストールされているアプリ」を開く。
そこで TrendLogger[の右クリックメニューから

[アンインストール]を選択します。

4.3 オブジェクトの追加

TrendLogObject はパソコンメモリの「許す範囲で複数個追加できます。
TrendLog 以外にも NotificationClassObject も複数個追加できます。

追加したオブジェクトは３．２で示す TrendLogObject のプロパティ修正方法により終始してから使用します。

4.4 動作開始と停止

TrendLogger の BACnet 動作を開始するにはツリービューで装置を選択し右クリックメニューから装置の動作開始を指定すればよい。動作停止する場合はツリービューで装置を選択し右クリックメニューから装置の動作停止を指定すればよい。

第5章 バックアップとリストア

作成した TrendLogger の情報はパソコン内に保存することおよび保存した情報から復元することができる。

5.1 保存

TrendLogger の Faile メニューで SaveAs をクリックすると前をつけて存巣つことができます。単に Save をクリックするとリストアするときに使用したファイルに上書きされます

5.2 リストア

上記で保管したデータを読み込み復元するためには TrendLogger の File メニューで OPEN をクリックればよい。この場合 TrendLogger をどうささせるためには

ツリービューで装置を選択し右クリックメニューから装置の動作開始を指定しなければならない。ただし TrendLogger の File メニューで OPENStart を指定すれば復元と同時に動作開始する。